



特別
イ 4
3163
107(3)



貴
14
3163
107(3)



美濃のあつやう跡下のき

風物集

春之序上

義久元年百番歌合小冊行旅

順徳院御製

夕佳く日すし末御はゆくの麦れ小笠り〜春風がさく
下の流白と春風の産を吹そく旅小人の美のさゆ
さ福か〜べし〜然らざる旅び道小春風のさくらん
ゆ〜さあ〜がれ〜あり。

後京極格改れたた小竹々る時や〜身合〜

○中は乃春物と跡下のき

昔家小成入殿

定家

初深心へんがく月まののぐへん殿ふも成へ落の事之れ
清め若れ成るもろれへんはなほも成る事也

百そ清歌れ中ふ

順徳院清製

しんじき書見へんはなほも成る事也
昔の事也中ふ

後京抄抄改

昔の事也中ふ
しんじき書見へんはなほも成る事也
しんじき書見へんはなほも成る事也
しんじき書見へんはなほも成る事也
しんじき書見へんはなほも成る事也

歌一とん

定家

昔家小成入殿

昔歌中

歌一とん

定家

昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿

昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿
昔家小成入殿

春舟下

水と落花

三位教改

~~~~~  
 結句の花のふらふら  
 今より花には流るる  
 水と落花のふらふら  
 ~~~~~

夏歌

夕涼の草もかへり

三才

~~~~~  
 夕涼の草もかへり  
 ~~~~~

~~~~~  
 夕涼の草もかへり  
 ~~~~~

夜涼の草もかへり

後京極教改

~~~~~  
 夕涼の草もかへり  
 ~~~~~

かゝりたりとてまはれどこれ又誰ぞあらじし。

秋奇上

後京極拾改た大なる侍々の時二百番歌合不獲暑

定家

秋事もたれゆ風もやうづねふらむとて千とせし陰ぞたつとて
歌しらすん

山ぞおもひゆめも傷し意秋ゆけとておもひの相のよきとせし
塔のまはるともふ相のよきとせし

恋歌三

後京極拾改た大なる侍々しとてこれ二百番歌合不獲

恋風恋

志らざるはしむ海し風の香もせむは枕うやとて秋のこころい
袖二つとせむしは枕うやとて秋のこころい
恋風恋もまはるとせむしは枕うやとて秋のこころい
るよかからふ改ありとておもひはれ風の香もせむは枕うやとて
恋風恋もまはるとせむしは枕うやとて秋のこころい
れ風もまはるとせむしは枕うやとておもひはれ風の香もせむは枕うやとて
恋風恋もまはるとせむしは枕うやとて秋のこころい

あゝ海の道はなんぞかゝるや 海はなればなれば
かゝる道に ぞありけり ぞありけり
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば

あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば

あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば

あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば
あゝ海はなればなれば 海はなればなれば

秋千載集

青春

定々

おんがさるるあまのついでに
けしきしよとておのれを
のびにやうをうけり

恋歌一

後を解たしつゝあまのついでに

如歌法師

おんがさるるあまのついでに

恋歌三

六百番歌合ふ

定々

おんがさるるあまのついでに
けしきしよとておのれを
のびにやうをうけり
おんがさるるあまのついでに
けしきしよとておのれを
のびにやうをうけり
おんがさるるあまのついでに
けしきしよとておのれを
のびにやうをうけり

名無草をくちまゆらふ中一 定家

琴の糸もかゝるさくさくたる葉とて花びらの指の中にも流るる
初二のころ花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさくさく
人のまじりては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
つゝとては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく

と恋葉とて中の流るるさくさくさくさくさくさくさくさく

歌一らん 後を頼下所

つゝとては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく
おもひては花をふりては花のまゝもさくさくさくさくさく

孝文賞歌

建仁三年船より下を釋下九千賀臨ませたる

河の岸風

うらたけ

若山の流をさぐる雲の久小年あさきのひのちかきと
袖二白むくしに如の流河小花山の通明傳ふ小指さ
あひし例もあはれき 雲を流すはなれあひし
あさきの道のまよひを料と 此の白く頼りたき
ささき年しら流るるまよひくは夜夜を臨みし
ささき道のまよひを料と

新撰孝文集

廿五

建仁元年鳥羽殿より合り山院部云

定家

ほろりてゆく雲の久小年あさきのひのちかきと
二三の白むくしに如の流河小花山の通明傳ふ小指さ
あひし例もあはれき 雲を流すはなれあひし
あさきの道のまよひを料と 此の白く頼りたき
ささき年しら流るるまよひくは夜夜を臨みし
ささき道のまよひを料と

雨甲部云

後鳥羽院文月

月影をよひききし〜

秋二首一

秋の夕ぐれ中一ふ

家隆の

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or letter by Iwano, starting with '月影をよひききし〜'.

野麻

Handwritten Japanese text in cursive style, starting with '月影をよひききし〜'.

清鉄一らん

順徳院御製

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or letter by Iwano, starting with '月影をよひききし〜'.

新撰

守元法親王の御筆

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or letter by Iwano, starting with '月影をよひききし〜'.

二六の秋の末に...
 も秋の終り...
 阿のぼり...
 むに接尾を秋の...
 八段ら...

哀傷奇

る中一をち

ちかびつ

末の露...
 初二...

下...
 養の事...
 どの...
 ち...
 合...

後...
 頃徳院法親

頃徳院法親

同...
 う...
 め...

より別れをきかぬと云ふもなほなほなほなほなほなほなほ
また内なるにきかぬと云ふもなほなほなほなほなほなほ
ねと云ふもなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
れ物なりと云ふもなほなほなほなほなほなほなほなほ
きかぬと云ふもなほなほなほなほなほなほなほなほ
くその身を今も同じくしなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ

意一

七光の光も入る花枝の故も百も言ふは不意

定家公

かひのつたもなき風吹ぬと云ふもなほなほなほなほなほ
かまひのつたもなき風吹ぬと云ふもなほなほなほなほ
しんむらひのつたもなき風吹ぬと云ふもなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ
なほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほなほ

恋歌二

宝治二年百舌鳥啼きし時空の玉意

八條院の命

昔とぬくたにばはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
かき命もあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
しむい神のまはりあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
く神のまはりあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
をまふもあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり

あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり

恋歌二

宝治二年百舌鳥啼きし時空の玉意

八條院の命

昔とぬくたにばはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
かき命もあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
しむい神のまはりあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
く神のまはりあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
をまふもあはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり
あはれはあづきのまふもあはれしむい神のまはり

えびすは花のうき。

恋舟よ

洞院橋故ま百すふ恋を

うらむ

おのれはよのさかづきに
三の白き梓葉物渡にあの
まふさあはなをゆくは
まふりししうらむの
彼物見の泪をまふさ
かみまふさあはなを
ゆきまふさあはなを

神祇舟

おのれは舟すまふさあはなを

しんせいのちまふさあはなを
初なるまふさあはなを
まふさあはなを
まふさあはなを

釋教歌

如來者得大

寂滅無師

そのまふさあはなを

初二日... 此の句... 難法善經の業... 難の難... 難... 難...

難多し

道助法親王... 難多し

難多し

難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し...

難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し...

正三位知家

難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し...

難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し... 難多し...

いづれ 又花の散るるをしのむるは人の心なるを
歌のよきことなり

雑言中

名取百首のうたはるる

うたはるる

まもりしひしきる人ふ志はるるをかくる久しき川の流るる
如歌しよとていふもあはれやと大伴のまらみ後松十郎
ししぬるまら 今も今もいふるまらまらなり 歌はるる
まられかきまらまらまらまらまらまらまらまらまら
久しきも松十郎なり

新後拾遺集

春前上

建仁元年のうたはるる

うたはるる

ふゆの海やとていふもあはれやと大伴のまらみ後松十郎
路のうたはるる浦風をまらまらまらまらまらまらまら
風まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

ふゆの海やとていふ

雑言中

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

〇まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

〇十一

わらわのうたはるる
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまら

その白く………ありんか………
Amore in nomine Amen Amen in nomine
in nomine Amen

おもたう

百さあもくへしよ 順徳は浄徳

あのみふれ………
万世ぶく………
おもたう………
年志………

あ………
………
………
………
………
………
………
………

建條ニま百としきまうりく創 定家

………
………
………
………
………

ふのそれおこしをなむのいふかゝるけい合のいふいふもあぢ
海も清しなむあつらふいあふよけい合のいふいふもあぢ
百も清しなむよませあひらへの中ふ 順徳院抄製

あまの御ひびいれまのさふいふいふもあぢいふいふいふいふ
さづひのいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
らぬまぢいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

九条宮内大臣家三平さまの中ふいふいふいふいふいふ

いふいふいふ

堀江ふぐいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

なま開のいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

廿五

名お百そいふいふいふいふいふいふ 定家

蝶の飛の衣一秋まきういふいふいふいふいふいふいふいふいふ
あまのいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
松まきいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

一、
 二、
 三、
 四、

秋奇上

一、
 二、

一、
 二、
 三、
 四、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、

建保三乙亥秋月

俊承の女

いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
かま秋の神のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋

秋歌一

有る

いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋

秋歌一

秋歌一

有る

いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋
いづれを一葉のしんもてはらむか神の月秋

萬古如來長壽無量阿耨多羅三藐三菩提 像來

秋の暮のふもつちのさびしき月夜に...

きしぎ

名正百をうまむとて時 かくむら

あまのついでにのよみのさくら... 初百をむしみの流流流の... ぬふしとらふら... 北の風も及ばぬら...

雑歌

百を流すもて申ふ 七流門流沙製

立回しものさくらやのさびしき月夜に...

きしぎ

建家...

かきふれはりのおれは... 上白のま... けいふ...

ふと下をけ合ふれ共相ひ合はぬ事さるべし
あまのこゝろのまじりてにきくぬまのまじりのまじり
みねとていふことさるべし

おとあし百さふ

あしらのまじりてにきくぬまのまじりのまじり
上の目まじりて此岸のまじりて浦のまじり
持りての浦まじりて浦のまじりて
まじりてのまじりてにきくぬまのまじりのまじり
まじりてのまじりてにきくぬまのまじりのまじり

恋歌四

みよ百まじり合ふ

巨秋門院丹後

中まじりてのまじりてあまのまじりてあまのまじりて
これいま世のまじりてあまのまじりてあまのまじりて
まじりてあまのまじりてあまのまじりてあまのまじりて
まじりてあまのまじりてあまのまじりてあまのまじりて

歌しる

西宮寺入道京方政大臣

まじりてあまのまじりてあまのまじりてあまのまじりて
まじりてあまのまじりてあまのまじりてあまのまじりて
まじりてあまのまじりてあまのまじりてあまのまじりて

〇まじりてあまのまじりてあまのまじりて

〇二四

新編歌上

歌一しらす

家内

よもはたあましらすけの老の波来よもはたあましらすけの浦風
三の白の草老くよもはたあましらすけの浦風 二の白
よもはたあましらすけの老の波来よもはたあましらすけの浦風
よもはたあましらすけの老の波来よもはたあましらすけの浦風

新編古今集

古言新上

水無瀬敵古言新上を合さし流るる時あつる言

家内

摺姫のあましらすけの神やすげの浦風よもはたあましらすけの浦風
よもはたあましらすけの浦風よもはたあましらすけの浦風
よもはたあましらすけの浦風よもはたあましらすけの浦風
よもはたあましらすけの浦風よもはたあましらすけの浦風
よもはたあましらすけの浦風よもはたあましらすけの浦風

於中細言新編

於中細言新編の浦風よもはたあましらすけの浦風

かみかみ

大いし海の聲ふ秋の長今れあなまのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの

後小松院おん十ヶ条の御抄の御歌海島御座る唐

まごめあれや春の神ふ春の長今れあなまのこころのこころのこころのこころの
 初白の風のこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 天はま海まふりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの

小中ふ春の神ふ春の長今れあなまのこころのこころのこころのこころの
 あやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあやあや

春舟下

河上落花

春舟下

春のこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの
 こころのこころのこころのこころのこころのこころのこころのこころの

ちねん百を多介ふ雲雀

後京極格改

かしの葉のうらみよふつふとあつれふねの目も川もれがらふも
いれ白の船を波の津をを日れおねをば波もくすく
物あがやふふあふあふ一そのまふ本づれの海はねあ
産も津ををねの目のおふ波のまれせををくく

後お招陣くく人くねをさくくくくくくくくくくく

つゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

むくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
此の文の終りくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

廿五歌

百を招きまふ中一二月日 順徳院沙羅

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あゝかゝる世のさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
大あゝのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
あゝかゝる世のさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
今ままおぼえをいかにせんか入られぬをいかにせんか

新玉津浦社にちかひなくのさびしき酒場に

雅録

あゝかゝる世のさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ

らくい 初白の月夜にけりぬのさびしき酒場に

後小松院にてけりぬのさびしき酒場に

まつりやうの杜納涼

あゝかゝる世のさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
あゝかゝる世のさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ
ふりぬきしやうのさびしき酒場の杜のこゝろ繩にけりぬ

秋歌下

新玉津浦社にちかひなくのさびしき酒場に

轉錄

くわいふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

五十一

初を嵐

轉録

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

五十二

洞院橋改家百そ改ふ不遠哉

俊生つ女

よふら〜村のまゝ〜のねやと夜は〜く〜のこ〜の夜
ゆきの秋のゆのよふら〜の神〜もあつ〜こ〜あひひら
ち〜ゆら〜。 ちのまふふえあつ〜むか〜〜ゆら〜ゆら〜

恋歌三

也保二年七月辛卯令余霖中恋

須徳隆沙製

命やもあ〜の大ゆ〜のほ〜のれき〜も〜ゆら〜
ふら命や〜何ぢは落のあ〜おなり〜し〜ゆら〜

か〜ふ。 命やあ〜のさ〜ふ〜ゆら〜と〜を〜め〜せ〜あ〜
こ。 ち〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜
ま〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜
ふ〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜
ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜

恋歌四

定ぬまもも入るも若松改家あるもちふも不恋

ちあゆつ

さひ川歌こ〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜ゆら〜

ふすかれわがぶ粒うりやも月影のそくしむあやうく氷の
comfessionとてはこれいふやれおのひさたまも。きんぎょ
の影のこりびにやをゆるしよひんかんとくまのあたまに
おのまかせたまふ。おのひひにひんかたをよよめしむ。
しほよとていふまはひんかたのいひにききしり。おんまゝにたの
月のまじりきくれば影をしまごちうりわりぬれ。
正治百そらお

七伊門内大長

おのまかせたまふの影よもあやうくいひんかたのあたまに
comfessionとてはこれいふやれおのひさたまも。きんぎょ
の影のこりびにやをゆるしよひんかんとくまのあたまに
おのまかせたまふ。おのひひにひんかたをよよめしむ。
しほよとていふまはひんかたのいひにききしり。おんまゝにたの

おのまかせたまふの影よもあやうくいひんかたのあたまに
comfessionとてはこれいふやれおのひさたまも。きんぎょ
の影のこりびにやをゆるしよひんかんとくまのあたまに
おのまかせたまふ。おのひひにひんかたをよよめしむ。
しほよとていふまはひんかたのいひにききしり。おんまゝにたの

正治百そらお 正之位知ま

おのまかせたまふの影よもあやうくいひんかたのあたまに
comfessionとてはこれいふやれおのひさたまも。きんぎょ
の影のこりびにやをゆるしよひんかんとくまのあたまに
おのまかせたまふ。おのひひにひんかたをよよめしむ。
しほよとていふまはひんかたのいひにききしり。おんまゝにたの

おのまかせ

十三年七月言合ふ海山志

後名羽院沙野

此キコトハ海山志ニシテ此ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ
海山志ノ此ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

三ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

秋ニシテモ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

此ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

後名羽院沙野言合ふ海山志

人ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ
二ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ
三ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

千歳集

春哥上

十三年の事ハモトヨリ

後集

此ノ事ハモトヨリ海山志ノ一ノ秋ニシテモ

廿五

振政を以て大佐に仰りて後討の事今亦部公

後本

ふらふらとよの森さみちやふらふらとふらふらと

秋より

百ぞちやふらふら秋の事

後本

夕暮れを舟への雅風をよしとてうづらむらう流るれ里

秋より

係近のころ身をうさるる百ぞちの事

時一虫

後本

ふらふらとよの森さみちやふらふらとふらふらと

志を二季流るる教の殿との事今亦閑路落葉

後三位振政

都むらむらとよの森さみちやふらふらとふらふらと

袖のふらふらとよの森さみちやふらふらとふらふらと

ふらふらとよの森さみちやふらふらと

振政を百きよ小娘

あはれあるおしづの時の声は遠く神波よよ
おしづの聲あつて一娘あつた。

恋歌二

歌一 一八八

藤原忠政

これこそ樂ふことたれは海にさかきへ
たむきたるおのれは人よもまのまの
あつたおのれはあつた。

恋歌又

月夜恋

兼位法師

おのれこそ月やあつたおのれはあつた。

雑言中

兼位法師がすめたる百きよ小娘

藤原忠政

いづこおのれはあつたおのれはあつた。
おのれはあつたおのれはあつた。
おのれはあつたおのれはあつた。

世の中も花をられどうもなほるれが...
づいふれたれす...
風をいふはふら...
あつらうもをら...
せしめは花...
いづくもはみづが...
迷懐百きまふり...
後集り

世中よきことなれ...
又帝のやせ...
...

...
あし...
袖二...
...
...
...
...
...
...
...

經書之部

明季遺聞

四

誹書之部

羣書治要

十七

牧民忠告解

一

枇杷園發句集

二

四書集註道春点

十

女のまゝ

一

同後編

二

同上紙

十

傳子

一

同類題發句集

二

同片假名附

四

常語藪

二

同三日月集

一

文選李善註

十

物數稱謂

一

同麻苺集

一

毛詩國字辨

十

律數楊權

二

同崔芝集

五

孝經鄭註

一

介翁茶史

二

同五七集

五

同指解

一

六諭衍義大意抄

一

同鳶の眼

一

版膺孝語

一

同瓢日記

一

國語定本

六

詩集之部

同菴の犬

一

莊子因

六

三野風雅

五

同法々花經

一

劉向說苑

五

暢園詠物詩

一

同隨筆

一

同考

一

日下新詠

一

同七部集

二

同參註

六

晞髮偶詠

一

同二編

二

同上紙

十

畸人詠

一

同三編

二

同列仙傳

一

先友詩抄

一

同四編

二

韓文起

十

寒林刪餘

一

同五編

二

今世說

一

金山稿

一

也有翁鷓衣合本

四

世說音釋

五

宋詩合璧

一

同前編

三

左傳蒙求

二

清百家絕句

三

同後編

三

星渚堂對問

一

蒙求標題詠

一

同續編

三

大學參解

一

金城白湯集

一

同拾遺

三

論語參解

五

日本詠物詩

三

誹諧無名集

一

醫書之部	醫家千字文	冢田物
積聚編	痘疹妙藥集	冢註周易
備考方	妙藥手引草	同正文
提耳談	易書之部	同毛詩
溫疫論	增補卜筮盲笈	同正文
藥品考	同文政再板	同六記
古方通覽	同增續	同老子
方書摘要	同大全	左傳增註
經穴秘授	同極秘	孟子斷
醫事古言	同卦象解	登錦行
吐方撮要	易道早合点	作詩質的
的治療方	人相早合点	江尾徃還蹴
一	一	二
一	一	一
一	一	一
一	二	二
五	三	十五
一	二	二
一	一	六
一	一	三
五	一	十
三	一	二
一	一	四
一	一	一

物品識名	佛書之部	論語群疑考
同拾遺	歎迦應化畧諺解	大峯文集
蘭藥鏡原	宗門畧列祖傳	滑川談
醫生堂雜話	登斯幾	隨意錄
內外要方	閑居忘草	天文曆學之部
同二編	圓戒琢磨訣	天文四星風雨考
同三編	圓光大師御傳略贊	天文候鑑
同四編	永平道元行狀圖	日用曆談
傷寒論持解	觀音施魚畏圖	觀象圖說
宋板傷寒論	現生護念之圖	晴雨管規
同正文	菩薩戒童蒙談抄	晴雨考
本朝水種方	唐士談語	年々出版
一	一	一
一	一	一
三	一	一
六	一	三
四	二	一
二	二	一
二	一	一
四	二	一
一	一	十
三	四	一
二	一	七
二	一	十

手本物之部

長雄書札集	一	同乞巧帖	一	王由敢寸珍孝經	一
長松貴札帖	一	同年中帖	一	漢魏隸書帖	一
空洞書翰	一	同尺一集	一	九疑山碑	一
大橋遺帖	一	同千字文	一	郭有道碑	一
同改年帖	一	同書通案文	一	義之周府君碑	一
同今川狀	一	同書札法帖	一	李邕沙羅樹碑	一
同池凍帖	一	同嵯峨名所	一	渤海藏真帖	一
同書用集	一	同四季 <small>かき</small> 文	一	東坡自我帖	一
同當用集	一	同四季文集	一	同大江帖	一
同書札集	一	同江戸川用文	一	同歸去來詩帖	一
同新消息	一	同筆用集	一	董其昌天馬賦	一

正面摺之部

同初學手本	一	同私用集	一	同衆鳥帖	一
同かき手本	一	同清風帖	一	同秣陵帖	一
同庭訓往來	一	二節詩哥撒英	一	道風草書帖	一
同風月往來	一	定家朗詠	二	信海 <small>三</small> 六歌仙	一
同明衡往來	一	行成朗詠	一	陋室銘	一
同商賣往來	一	琴曲桃 <small>の</small> 宴	一		
同江戸往來	一	箏曲大意抄	六	草木性譜	一
同江戸名所	一	同 <small>二</small> 輪入	六	草木有毒圖說	一
御家書札文海	一			立花當用集	一
同當時用文章	一	煎茶早指南	一	諸禮大學	一
同永代用文章	一	永樂大雜書	一	同上紙	一
同早速千字文	一	神術極秘卷	一	十躰千字文	一

石刻法帖之部	夫子廟堂碑	一	北齋漫畫	一	金氏畫譜	一
	朱子風雪帖	一	北齋畫譜	三	浮世畫譜	一
	宋七君子法帖	一	同上紙	一	同二編	一
	歐陽詢九成宮	一	一筆畫譜	一	初學畫手本	一
	子昂要宦帖	一	西筆畫譜	一	福善齋畫譜	五
	同羊公帖	一	同上紙	一	武勇魁圖會	一
	徂來大曆帖	一	英勇畫譜	一	同二編	一
	廣澤樂得帖	一	袖事行燈	一	算法之部	一
	米元章天馬賦	一	同二編	一	早引相場帳	一
			同三編	一	開式新法	二
			同四編	一	玉積通考	三
					點覽指南錄	三

繪本之部	繪本新山科	二	同五編	一	同二編	三
	同庭訓徂來	三	珖林漫畫	一	同三編	三
	同女今川	一	蕙齋鹿畫	一	同四編	三
	同彩色入	一	同二編	一	同五編	三
	同大江山	一	同三編	一	周髀算經圖解	五
	同彩色入	二	同四編	一	同國字解	二
	同曾我物語	一	同五編	一	算法工夫之錦	三
	同彩色入	二	北溪漫畫	一	同發隱錄	一
	同英分勇者	一	北雲漫畫	一	開運の巻	一
	同彩色入	二	同上紙	一	萬室大通考	一
			文鳳鹿畫	一	八木龍の巻	一
			同上紙	一		

石刻法帖之部	夫子廟堂碑	一	北齋漫畫	一	金氏畫譜	一
	朱子風雪帖	一	北齋畫譜	三	浮世畫譜	一
	宋七君子法帖	一	同上紙	一	同二編	一
	歐陽詢九成宮	一	一筆畫譜	一	初學畫手本	一
	子昂要宦帖	一	西筆畫譜	一	福善齋畫譜	五
	同羊公帖	一	同上紙	一	武勇魁圖會	一
	徂來大曆帖	一	英勇畫譜	一	同二編	一
	廣澤樂得帖	一	袖事行燈	一	算法之部	一
	米元章天馬賦	一	同二編	一	早引相場帳	一
			同三編	一	開式新法	二
			同四編	一	玉積通考	三
					點覽指南錄	三

繪本之部	繪本新山科	二	同五編	一	同二編	三
	同庭訓徂來	三	珖林漫畫	一	同三編	三
	同女今川	一	蕙齋鹿畫	一	同四編	三
	同彩色入	一	同二編	一	同五編	三
	同大江山	一	同三編	一	周髀算經圖解	五
	同彩色入	二	同四編	一	同國字解	二
	同曾我物語	一	同五編	一	算法工夫之錦	三
	同彩色入	二	北溪漫畫	一	同發隱錄	一
	同葵分勇者	一	北雲漫畫	一	開運の巻	一
	同彩色入	二	同上紙	一	萬室大通考	一
			文鳳鹿畫	一	八木龍の巻	一
			同上紙	一		

字引節用之部

將碁之部

百人首之部

滿字節用錦字選	一	將碁道標	一	棲鳳百人	一
同中紙	一	同階梯	二	同上紙	一
同上紙	一	同金襖	一	蓬萊百人	一
早字節用集	一	同鷲爪	一	同上紙	一
同上紙	一	同定跡	二	吾妻百人	一
同大全	一	同連珠	二	同上紙	一
同上紙	一	同名家友	一	錦葉百人	一
同真字附	一	同古今集	一	同上紙	一
同上紙	一	同相掛集	二	麗玉百人	一
四聲節用集	一	同指南車	一	同上紙	一
同上紙	一	同百番笈	一	今樣百人	一

手紙早引集

同自在

同上紙

永樂古狀揃

渡世肝要記

女今川貞操鑑

同上紙

同二編

同上紙

同假名附

碁經之部

同上紙

碁經奕範

秉穗錄

初學古狀揃

同奕筌

同二編

同上紙

碁立手談

彼此合府

同假名附

延壽養生談

同上紙

大日本國郡全圖

養生要論

尾州名古屋本町通寺目
江戸日本橋通本銀町二丁目
濃州大垣本町

永樂屋東四郎
同 出店
同 出店

